

## 公共事業等新規事業評価調書

部課室名	河川開発課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川開発課長 中川進三郎 (中村 浩康)	内線	4 4 2 6 ( 4 4 3 1 )
------	-------	---------------------	-------------------------	----	------------------------

事業種目	ダム事業	事業名	事業区間	総事業費	1 7 3 億円
		新湊川治水事業 高尾ダム	神戸市北区山田町 下谷上地内		

所在地	着工予定年度	完成予定年度
神戸市北区山田町下谷上字中一里山	H 1 3 年度	H 2 2 年度

事業目的	事業内容
<b>治水対策</b> ・昭和42年の豪雨災害は、家屋全壊367戸、半壊390戸、死者98名と昭和13年の阪神大水害に次ぐ被害を生じさせた。これを契機に新湊川治水計画の抜本的な見直しが行われ河川改修と洪水調節施設による治水計画が立てられた。高尾ダムは既設の天王ダム及び建設中の石井ダムとともに新湊川工実施基本計画に位置づけられた治水ダムで下流の河川改修と併せて新湊川流域を100年に1回程度の確率で起こる洪水から防御する計画である。	<b>型式：重力式コンクリートダム</b> 堤高：65.4 m      総貯水容量：920,000 m <sup>3</sup> 堤頂長：140.0 m      有効貯水容量：900,000 m <sup>3</sup> 堤体積：136,000 m <sup>3</sup> 堆砂容量：20,000 m <sup>3</sup> 集水面積：3.2 km <sup>2</sup> 洪水調節効果：80 m <sup>3</sup> /s      10 m <sup>3</sup> /s (ダム地点で70 m <sup>3</sup> /sをカット)

評価視点	評価内容
(1)必要性 安全・安心	・治水安全度の向上 平成10年の台風7号で床下浸水633棟、床上浸水404棟、平成11年の梅雨前線による大雨により床下浸水191棟、床上浸水274棟の被害を受けている。近傍の河川と比較しても治水安全度が低く、早急に対応する必要がある。 河川改修+天王ダム+石井ダム=1/40年      河川改修+天王ダム+石井ダム+高尾ダム=1/100年
地域の活性化	・高度に土地利用された市街地の安全・安心を確保することにより、民生の安定とより一層の地域活性化が図られる。また、渓谷部へのアクセスが向上することにより身近な市民の散策の場として利用が可能となる。
(2)有効性・効率性 経済性	・費用便益比 B / C = 1 2 . 7
代替性	・下流河川の現計画以上の拡幅・トンネル放水路による治水対策は下流域が高度に市街化していることから事業コストが高くなり原案に比べ実現性に乏しい。
効率性	・建設予定地の山林は神戸市が所有しており、用地取得が比較的容易である。
(3)環境適合性	・現存植生の移植・増殖等保全対策を講じるとともに切土法面は植生の復元を図り、関連施設整備、周辺整備にあたっては近自然工法の採用を検討し、生態系の保全に配慮する。
(4)優先性	・新湊川は、表六甲河川の中でも最大の流域を有しており、下流沿川は高度に市街化し人口・資産が集中している。また、昭和42年の豪雨災害及び、平成10年、11年と連続して溢水被害を受けているため、治水安全度の向上が急務である。

評価結果の		左	
		の理	
		由	